

# 東京藝術大学 令和元年度 財務レポート

(令和元年度事業年度：平成31年4月1日～令和2年3月31日)

---



# 東京藝術大学の使命と目標

東京藝術大学は、その前身である東京美術学校、東京音楽学校の創立以来130余年間、我が国の芸術教育研究の中核として、日本文化の伝統とその遺産を守りつつ、西欧の芸術思想及び技術を摂取、融合を図り幾多の優れた芸術家、中等教育から高等教育に亘る芸術分野の教育者・研究者を輩出してきました。

こうした歴史的経緯を踏まえ、我が国唯一の国立総合芸術大学として、創立以来の自由と創造の精神を尊重し、我が国の芸術文化の発展について指導的役割を果たすことが、東京藝術大学の使命であると考えています。

また、この使命の遂行のため、以下のことを基本的な目標としています。

- ・世界最高水準の芸術教育を行い、高い専門性と豊かな人間性を有した芸術家、芸術分野の教育者・研究者を養成する。
- ・国内外の芸術教育研究機関や他分野との交流等を行いながら、伝統文化の継承と新しい芸術表現の創造を推進する。
- ・心豊かな活力ある社会の形成にとって芸術のもつ重要性への理解を促す活動や、市民が芸術に親しむ機会の創出に努め、芸術をもって社会に貢献する。

## 東京藝術大学 NEXT 10 Vision



TOKYO GEIDAI

### 革新的であること

—もっと新しい、独創に向けた挑戦を—

### 多様性があること

—もっと幅広い、才能が刺激し合う場を—

### 国際的であること

—もっと世界へ、日本の芸術文化の発信を—

平成29年10月、東京藝術大学は創立130周年を機に、今後10年歩むべき方向性を全学的に議論し「東京藝術大学 NEXT 10 Vision」を策定しました。これからの10年、東京藝術大学はこの3つのビジョンに向かって、“オール藝大”体制の下、力強く進んでまいります。

# 第3期中期目標期間におけるビジョン

第3期中期目標期間（H28～R3年度）においては、第3期中期目標・中期計画および学長宣言2016において、以下の目標を掲げ、大学改革や機能強化に取り組んでいます。

- ・芸術が持つ無限の可能性を確信し、豊かで創造性に満ちた社会を実現する
- ・世界最高峰の芸術大学への飛躍を目指し、日本の芸術文化力の向上に資する
- ・芸術の魅力や素晴らしさ、芸術大学の価値・存在意義を証明していく

## 実現のためのアクション（大学改革・機能強化推進戦略2016）

### 教育・研究

#### 世界トップアーティストの戦略的育成の推進

新たな大学院組織整備、海外連携大学等との国際共同プロジェクト、早期教育の拡充

#### 国際的芸術教育研究拠点の形成

国内外の大学・研究機関等とのネットワーク強化、海外派遣・受入の促進

#### 革新的アートイノベーションの創出

産学官連携・分野融合による学際的研究を推進

#### 入試改革・高大接続モデルの構築

国際バカロレア資格活用等新たな選抜方法、音楽学部飛び入学等新たな高大接続モデル

#### キャリア支援プログラム・経済的支援の強化

卒業後も含めたキャリア支援、新たな奨学金制度等経済的支援の充実

### 社会連携

#### アートプロジェクト・早期教育プロジェクト等の全国展開の推進

地域の芸術文化潜在力の活かした全国的な活動展開

#### 産学官連携強化・パートナーシップの構築

全国芸術系大学コンソーシアム、大学・研究機関・産業界・自治体とのパートナーシップ構築

#### 芸術の力を活かしたソーシャルプラクティスの推進

復興支援や共生社会の実現に向けたソーシャルプラクティスの推進

### 大学運営

#### ダイバーシティな大学環境整備・システムの構築

多様な人材に対応した支援やキャンパス機能の強化

#### 教育研究・芸術活動成果の社会還元等プロモーション活動の実行

クラウドファンディング、藝大アートプラザ等、芸術活動成果の戦略的発信

#### 持続可能型キャンパスマネジメントシステムの確立

中長期的なキャンパスランドデザインの構築

#### 経営力強化・財務運営基盤の構築

学内資源の合理化・再配分、戦略的ファンドレイジング実施

#### 同窓生・支援者等とのネットワーク基盤の構築

同窓生との持続的・発展的な交流確保、支援者との緊密な連携協力関係の構築

第3期におけるより詳細な目標・計画についてはこちら

[第3期中期目標・中期計画一覧] [https://www.geidai.ac.jp/wp-content/uploads/2017/11/legal02ro\\_03ichiran20180416.pdf](https://www.geidai.ac.jp/wp-content/uploads/2017/11/legal02ro_03ichiran20180416.pdf)

# 東京藝術大学の基礎情報

## 学生数

	美術	音楽	映像	国際芸術創造	合計
学部	984名	1,000名			1,984名
大学院（修士）	558名	297名	139名	29名	1,023名
大学院（博士）	158名	75名	14名	18名	265名
別科		46名			46名
附属高等学校		119名			119名

## 学位授与数・修了者数・卒業者数

	美術	音楽	映像	国際芸術創造	合計
学部	223名	244名			467名
大学院（修士）	196名	99名	49名	18名	362名
大学院（博士）	33名	13名	0名		46名
別科		19名			19名
附属高等学校		40名			40名

※論文博士を含む

## 教職員数

教員	251名
職員等	153名
合計	404名

## 土地面積

校地	建物延	土地
上野校地	97,340㎡	69,365㎡
取手校地	20,316㎡	164,095㎡
横浜校地	4,667㎡	1,927㎡
千住校地	6,546㎡	4,045㎡
奈良・古美術研究施設	1,036㎡	1,792㎡
松戸・国際交流会館	1,592㎡	2,088㎡
東和・藝心寮	8,846㎡	7,811㎡
合計	140,298㎡	251,123㎡

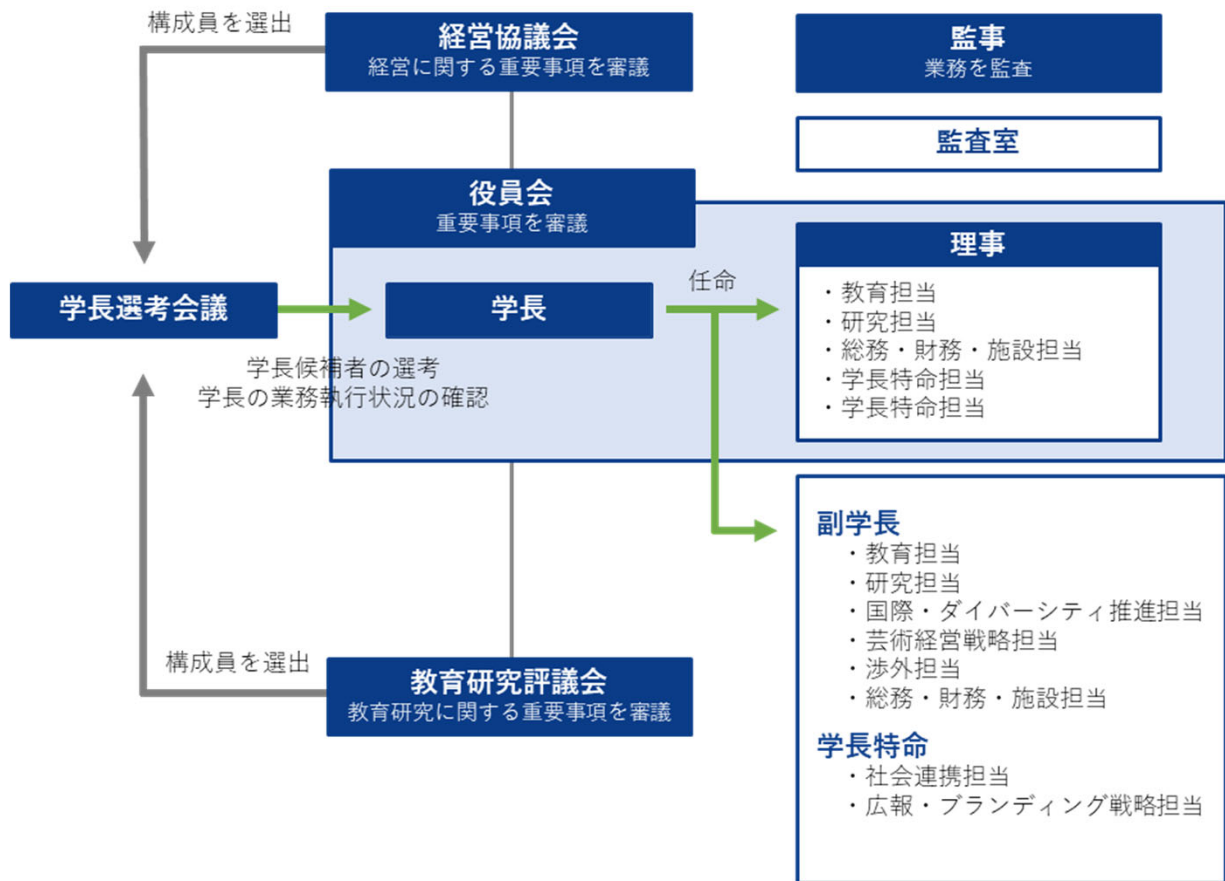
## 国際交流

大学間交流協定締結機関	28カ国・地域 77機関
外国人留学生	37カ国・地域 283名

## 所蔵品・楽器・蔵書

美術工芸品・標本・資料	29,912件
楽器	2,781点
蔵書冊数	386,605点
雑誌	4,912タイトル

※学位授与数・修了者数・卒業者数は令和元年度実績  
それ以外は令和2年5月1日現在の実績を示す



- | 部局  |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術学部 - 事務部</li> <li>・附属古美術研究施設</li> <li>・附属写真センター</li> <li>・音楽学部 - 事務部</li> <li>・附属音楽高等学校</li> <li>・藝大フィルハーモニア管弦楽団</li> </ul> </li> <li>・大学院                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術研究科</li> <li>・音楽研究科</li> <li>・映像研究科 - 事務部</li> <li>・国際芸術創造研究科</li> </ul> </li> <li>・大学別科</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・附属図書館 - 事務部</li> <li>・大学美術館 - 事務部</li> <li>・社会連携センター</li> <li>・言語・音声トレーニングセンター</li> <li>・演奏芸術センター</li> <li>・保健管理センター</li> <li>・芸術情報センター</li> <li>・藝大アートプラザ</li> </ul> |

- | 事務局   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・総務課</li> <li>・戦略企画課</li> <li>・国際企画課</li> <li>・社会連携課</li> <li>・学生課</li> <li>・施設課</li> <li>・千住校地事務センター</li> </ul> |



澤和樹学長ゆるキャラ  
「カズキチャマ」

# 令和元年度の主なTOPIC

## レンガ造の正門を100年先に受け継ぐ「東京藝術大学正門再生プロジェクト」

老朽化し、大地震の際に倒壊の恐れがある正門を既存のレンガを生かして造り替え、100年先まで残すことを目標に「100年前からの歴史ある姿を100年後の藝大生へ受け継ぐための正門再生プロジェクト」を行いました。

再生工事の財源はクラウドファンディングにより集い、目標金額150万円という設定に対して、240万円以上のご寄附をいただきました。

クラウドファンディングのリターンのひとつとして、「塀に利用するレンガにお名前を刻印する」というメニューを用意したり、大学の主要な施設を巡るキャンパスツアーを実施したり、学内外で関連資料や写真の展覧会を開催するなどの試みも行い、正門を本学の新しい顔として愛着が生まれる場所に再生させました。



## 産官学・地域連携プロジェクト『たいけん美じゅつ場』（VIVA）オープン



令和元年12月に、複合文化交流施設『たいけん美じゅつ場』が、JR常磐線取手駅直結の駅ビル「ボックスヒル取手」4Fにオープンしました。

この取組は、茨城県取手地区の活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展のため、本学と、取手市、JR東日本東京支社、株式会社アトレの四社が産学官の連携を結び、斬新なアイデアによって魅力あるまちづくりに取り組む活動のひとつです。

本施設では、専門性の高いアートプログラムやコミュニケーションプログラム、本学美術館が所蔵する作品等を活用したアート鑑賞体験等を提供していきます。

## 修了生・池口史子さんが「美術愛住館」を本学へ寄贈

「美術愛住館」は、池口史子さんと堺屋太一（本名・池口小太郎）さん夫妻が暮らした書斎・アトリエ併設の建物（設計指導＝安藤忠雄氏）を、本学名誉教授・元倉眞琴氏の設計により1階と2階を展示室として全面改装し、2018年に美術館として開館。池口さんは、母校である本学の洋画教育の充実発展と世界への発信の中心拠点として引き継いで活用してほしいと、同館を本学へ寄贈されました。

今後、同館を「堺屋太一記念 東京藝術大学 美術愛住館」として、学生・教職員、卒業生等による展覧会、講演会、フォーラム・シンポジウム、コンサート等の文化芸術活動に活用していきます。



## 文化支援プロジェクト

美術学部・研究科

### 「BVLGARI MECENATE/ブルガリ メチェナーテ」発足

令和元年度から新たに、本学とブルガリジャパン株式会社が連携して行う文化支援プロジェクト「BVLGARI MECENATE/ブルガリ メチェナーテ」を開始しました。

本企画では、若い作家に芸術活動のチャンスを提供すること、日本の伝統的美術・工芸技術技法の継承に役立つこと、古き良き技術とコンテポラリーの融合・出逢いを目的に、『漆』を用いた作品プランの公募を在学生・卒業生を対象として行います。優秀作品には奨学金やメディア掲載の機会が与えられます。

## 東京藝大ウィンドオーケストラが南仏ラ・クロワ・ヴァルメールでの吹奏楽フェスティバルとパリ日本文化会館での演奏を披露

音楽学部・研究科

令和元年6月から7月にかけて、「東京藝大ウィンドオーケストラ」が、南フランス、ラ・クロワ・ヴァルメールでの吹奏楽の祭典「フェスティバル・デザンシュ・ダジュール」に参加しました。パリ日本文化会館でも、教員と選抜学生による室内楽アンサンブルを披露しました。

日本文化の紹介を兼ねた邦人作曲家たちの作品、シャンソン・メドレー、マーチ、また郷愁をそそるバグパイプのメドレーなど、高い技術と音楽性に裏打ちされた演奏で、音楽の感動を喚起するようなプログラムを披露。地元の新聞には「驚くべき正確さを以て西洋音楽を演奏する」と感嘆の賛辞が寄せられ「日本の歌（竹田の子守歌）は聴衆の胸を熱くしフランスへのオマージュの数々が特に素晴らしかった」と、予想以上の反響を得ることができました。

## ゲームコースの創設と新たな研究の展開

映像研究科

令和元年4月、大学院映像研究科に「ゲームコース」を創設しました。同コースでは、ゲームを新しい芸術領域と位置付け、研究や作品制作を通してゲームの可能性や映像表現のフィールドを広げることに貢献し、また、教育や医療分野などの社会的な課題に対しても、ゲームを通じた新しいアプローチで取り組むことで「ゲーム」という定義を幅広く捉え直し、多様性と可能性をもたらすことを目指しています。

加えて、令和元年8月には、本学と横浜市立大学およびアステラス製薬との共同により、ゲーミフィケーションを用いた新たなデジタルヘルスケア・ソリューション創出へ向け、「Health Mock Lab.」を発足しました。



## 文化政策人材育成プロジェクト「Meeting アラスミ！」開始

国際芸術創造研究科

国際芸術創造研究科において、文化庁の「大学における文化芸術推進事業」による助成を受け、主として社会人を対象とした実践的教育プログラムとして、「2020の先にある新たな文化政策を実現するための広域連携について試行し実践する人材育成講座 Meeting アラスミ！」を開始しました。

すみだ川界限（around SUMIDAGAWA=アラスミ）の地域において、「地域の文化芸術を推進するプラットフォーム」、「地域の連携・協働を推進するプラットフォームの形成」に着目し、先進的な事例に取り組む自治体・団体と協力して学びと実践の場を提供する人材の育成を行います。

# 令和元事業年度決算

## 財務諸表等の概要

国立大学法人では、国民その他ステークホルダー（利害関係者）に対し財政状態や運営状況に関する説明責任を果たし、自己の状況を客観的に把握する観点からの作成及び公表が義務付けられています。ここでは、皆様に本学の財務状況をお伝えするために、令和元年度決算のポイントを説明します。

正式な財務諸表等は、こちら（東京藝術大学HP）に掲載されています。  
[https://www.geidai.ac.jp/information/info\\_public/legal/library\\_of\\_legalinfo#FinancialInformation](https://www.geidai.ac.jp/information/info_public/legal/library_of_legalinfo#FinancialInformation)



# 1. 貸借対照表の概要(令和元年度)

単位：百万円				
科目	平成30年度	令和元年度	対前年度増減額	対前年度増減比率
<b>資産の部</b>	<b>71,105</b>	<b>71,207</b>	<b>101</b>	<b>0%</b>
(主な科目)				
土地	36,831	37,292	461	1% ※1
建物・構築物	22,274	21,511	△763	-3%
工具器具備品	662	544	△117	-18% ※2
図書	1,395	1,417	21	2%
美術品・収蔵品	4,906	4,947	41	1%
現金及び預金	4,017	4,290	273	7%
<b>負債の部</b>	<b>10,496</b>	<b>10,633</b>	<b>136</b>	<b>1%</b>
(主な科目)				
資産見返負債	3,795	3,815	19	1%
長期前受収益	2,115	2,027	△88	-4%
運営費交付金債務	226	276	50	22% ※3
寄附金債務	2,738	2,806	68	2%
未払金	831	851	20	2%
<b>純資産の部</b>	<b>60,609</b>	<b>60,574</b>	<b>△35</b>	<b>0%</b>
(主な科目)				
前中期目標期間繰越積立金	71	71	0	0%
目的積立金	377	571	194	51% ※4
積立金	16	16	0	0%
当期末処分利益	231	221	△10	-5%

※百万円未満切り捨ての為、合計が合わない場合がございます。

## ※対前年度増減比率が大きかった科目とその主な増減要因

1. 池口史子さん（本学修了生）、堺屋太一財団より「美術愛住館」が本学に寄贈され、前年度よりも461百万円（1%）増加しています。
2. 工具器具備品：老朽化・陳腐化が進行していることに伴い、前年度よりも117百万円（18%）減少しています。
3. 運営費交付金債務：運営費交付金措置額が増加したことにより、前年度よりも50百万円（22%）増加しています。
4. 目的積立金：目的積立金の承認、計画的な執行により、前年度よりも194百万円（51%）増加しています。

## 2. 損益計算書の概要(令和元年度)

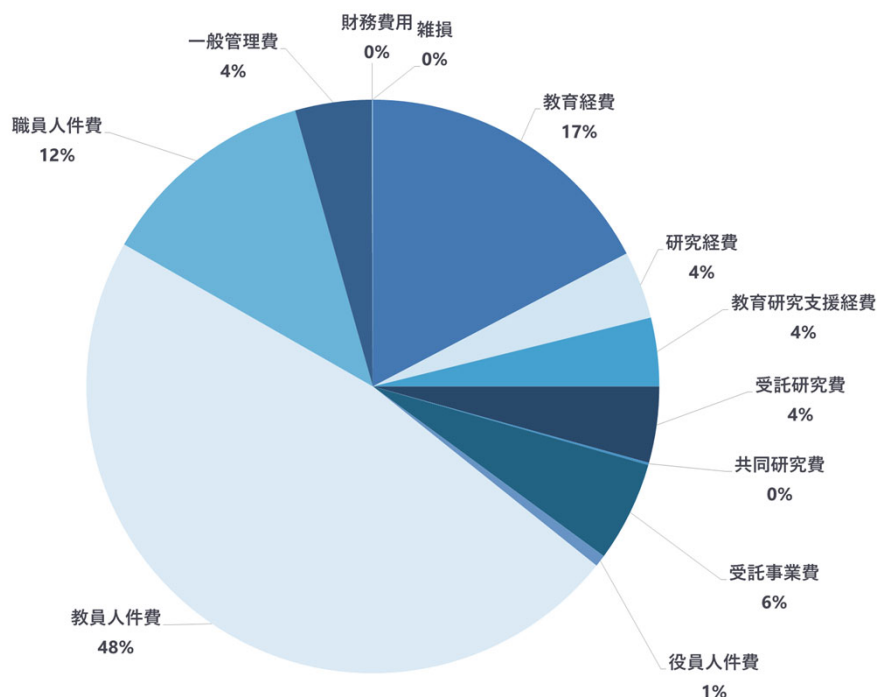
単位：百万円				
科目	平成30年度	令和元年度	対前年度増減額	対前年度増減比率
<b>経常費用</b>	<b>9,098</b>	<b>8,802</b>	<b>△ 295</b>	<b>-3%</b>
(主な科目)				
教育経費	1,472	1,525	52	4%
研究経費	443	335	△ 108	-24% …※1
受託研究費等	836	887	50	6%
人件費	5,252	5,329	77	1%
一般管理費	572	380	△ 192	-34% …※2
<b>経常収益</b>	<b>9,294</b>	<b>9,016</b>	<b>△ 278</b>	<b>-3%</b>
(主な科目)				
運営費交付金収益	5,040	4,932	△ 108	-2%
学生納付金収益	2,092	2,114	21	1%
受託研究等収益等	854	908	53	6%
寄附金収益	322	261	△ 60	-19%
施設費収益	108	44	△ 63	-59% …※3
補助金等収益	292	196	△ 96	-33%
入場料収入	60	68	7	12%
<b>経常利益</b>	<b>196</b>	<b>214</b>	<b>17</b>	<b>9%</b>
<b>臨時損失</b>	<b>59</b>	<b>17</b>	<b>△ 41</b>	<b>-70% …※4</b>
<b>臨時利益</b>	<b>20</b>	<b>1</b>	<b>△ 19</b>	<b>-94% …※5</b>
<b>目的積立金等取崩額</b>	<b>73</b>	<b>23</b>	<b>△ 50</b>	<b>-69% …※6</b>
<b>当期総利益</b>	<b>231</b>	<b>221</b>	<b>△ 10</b>	<b>-5%</b>

※百万円未満切り捨ての為、合計が合わない場合がございます。

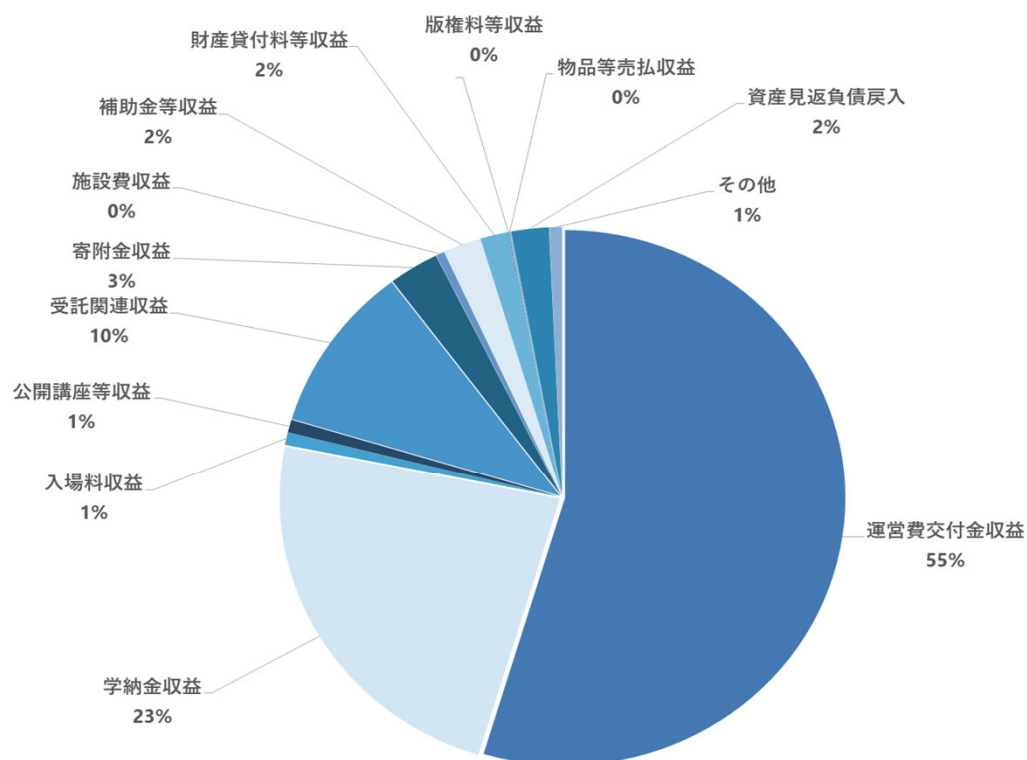
### ※対前年度増減比率が大きかった科目とその主な増減要因

1. 研究経費：補助金・寄附金財源による執行額の減少、業務費全体の減少により、前年度よりも108百万円（24%）減少しています。
2. 一般管理費：PCB廃棄物処理費（平成30年度のみの特異要因）の支出がなくなったため、前年度よりも192百万円（34%）減少しています。
3. 施設費収益、4. 臨時損失、5. 臨時利益：今年度は、国際芸術リソースセンター工事（平成30年度の工事）の支出がなくなったため、施設費収益は前年度よりも63百万円（59%）減少、臨時損失は41百万円（70%）減少、臨時利益は前年度よりも19百万円（94%）減少しています。
6. 目的積立金等取崩額：平成30年度は大規模工事、奏楽堂舞台天井反射板ワイヤー・水平滑車交換工事（約4.3百万円）による支出のため取り崩し額が多くなっていましたが、本年度はその支出がなくなったため、取り崩し額は前年度より50百万円（69%）減少しています。

## 経常費用の内訳（令和元年度）



## 経常収益の内訳（令和元年度）



## セグメント別の状況（令和元年度）

単位：百万円							
区分	美術学部	音楽学部	映像研究科	国際芸術創造研究科	附属図書館	大学美術館	社会連携センター
<b>業務費用</b>	<b>3,161</b>	<b>2,274</b>	<b>534</b>	<b>138</b>	<b>161</b>	<b>336</b>	<b>58</b>
(主な科目)							
教育経費	560	494	133	22	2	44	4
研究経費	154	38	57	15	1	3	7
教育研究支援経費	4	5	-	-	48	139	2
受託研究費等	340	62	28	0	-	1	41
人件費	2,018	1,607	313	98	103	119	5
一般管理費	83	68	4	2	7	29	0
<b>業務収益</b>	<b>3,195</b>	<b>2,308</b>	<b>548</b>	<b>150</b>	<b>162</b>	<b>345</b>	<b>66</b>
(主な科目)							
運営費交付金収益	1,489	1,032	328	102	150	281	-
学生納付金収益	1,072	890	103	33	-	-	-
受託研究等収益等	348	124	28	-	-	15	56
寄附金収益	120	74	8	1	0	5	3
施設費収益	18	26	-	-	-	-	0
補助金等収益	20	3	63	10	-	7	1
入場料収入	-	25	0	-	-	23	-
<b>業務損益</b>	<b>34</b>	<b>34</b>	<b>14</b>	<b>13</b>	<b>1</b>	<b>8</b>	<b>8</b>
<b>帰属資産</b>	<b>4,834</b>	<b>5,046</b>	<b>33</b>	<b>1</b>	<b>2,837</b>	<b>8,749</b>	<b>619</b>

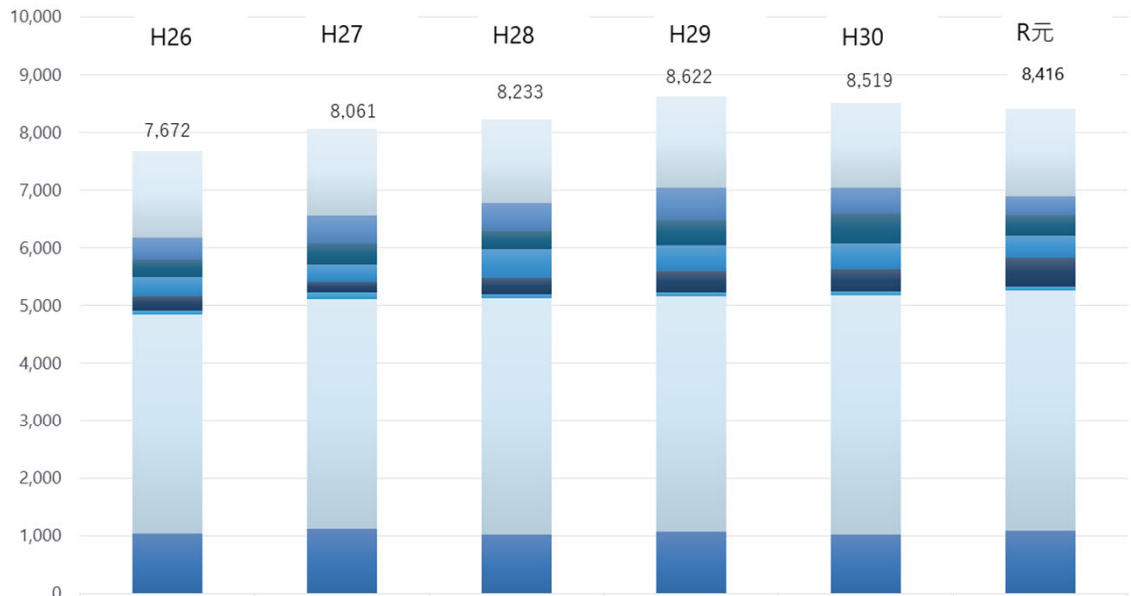
単位：百万円							
区分	言語・音声トレーニングセンター	演奏芸術センター	芸術情報センター	保健管理センター	附属音楽高等学校	法人共通	合計
<b>業務費用</b>	<b>53</b>	<b>230</b>	<b>125</b>	<b>48</b>	<b>184</b>	<b>1,501</b>	<b>8,802</b>
(主な科目)							
教育経費	5	7	1	12	23	219	1,525
研究経費	2	44	1	0	0	14	335
教育研究支援経費	-	49	79	0	0	14	340
受託研究費等	0	20	2	-	5	389	887
人件費	46	105	38	36	151	691	5,329
一般管理費	0	5	4	0	4	173	380
<b>業務収益</b>	<b>53</b>	<b>245</b>	<b>125</b>	<b>48</b>	<b>184</b>	<b>1,589</b>	<b>9,017</b>
(主な科目)							
運営費交付金収益	53	196	118	46	156	981	4,932
学生納付金収益	-	-	-	-	17	-	2,114
受託研究等収益等	-	10	2	-	-	326	908
寄附金収益	-	6	-	-	9	33	261
施設費収益	-	-	-	-	1	-	45
補助金等収益	-	3	3	-	-	88	197
入場料収入	-	19	-	-	-	-	68
<b>業務損益</b>	<b>0</b>	<b>15</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>88</b>	<b>214</b>
<b>帰属資産</b>	<b>0</b>	<b>2,459</b>	<b>271</b>	<b>12</b>	<b>51</b>	<b>46,295</b>	<b>71,207</b>

※百万円未満切り捨ての為、合計が合わない場合がございます。

### 3. 業務費

業務費の金額の推移

単位：百万円



	H26	H27	H28	H29	H30	R元
■教育経費	1,492	1,490	1,445	1,577	1,472	1,525
■研究経費	373	482	481	567	443	335
■教育研究支援経費	304	374	326	428	514	340
■受託研究費等	332	307	504	446	457	388
■受託事業費	246	169	274	372	379	498
■役員人件費	70	119	70	71	71	58
■教員人件費	3,819	4,006	4,101	4,094	4,158	4,181
■職員人件費	1,033	1,111	1,027	1,065	1,021	1,089

業務費全体としては近年増加の一途を辿っていたが、平成30年度より減少に転じた。

教育経費については近年大きな変化はないが、平成30年度したが令和元年度では増加した。

研究経費は近年増加傾向にあったものの、平成30年度から減少傾向である。

教育研究支援経費は平成29年度・平成30年度は、国際芸術リソースセンター工事により増加したが、令和元年度はそれ以前の水準に戻っている。

受託研究費等は、前年度により減少したが、受託事業費は増加傾向にあり、前年度からも大きく増加している。

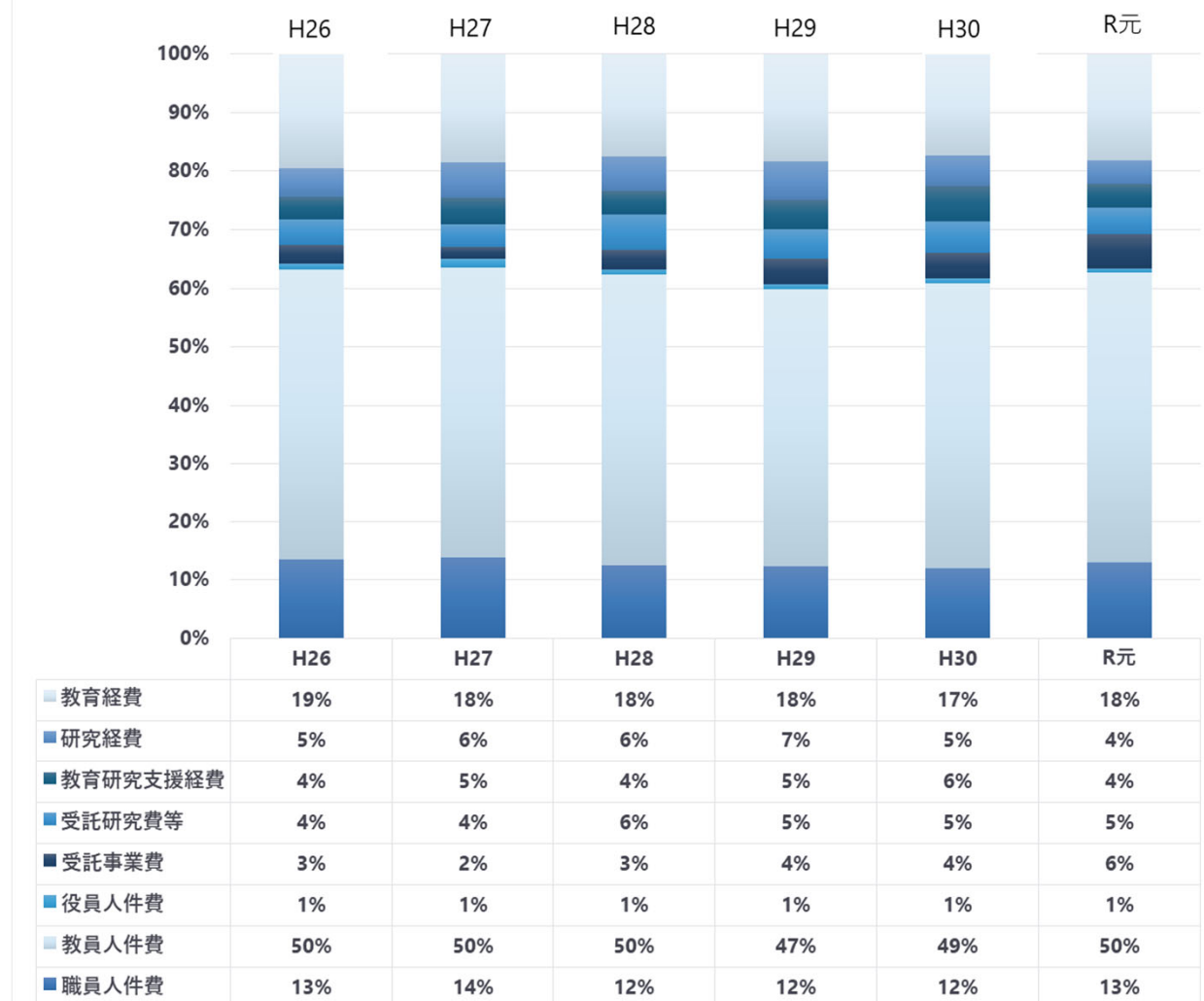
役員人件費は平成27年度に退職者がいたため大きく増加し、令和元年度の減少については、理事職の一部を職員が兼務したことに起因する。

教員人件費は増加傾向にあり、対平成26年度比で最も変化が大きく（約362百万円増加）、法人化以降最高額である。

職員人件費は平成27年度まで増加し、それ以降は減少に傾向にあったが、令和元年度は再び増加している。

## 業務費の割合の推移

単位：百万円

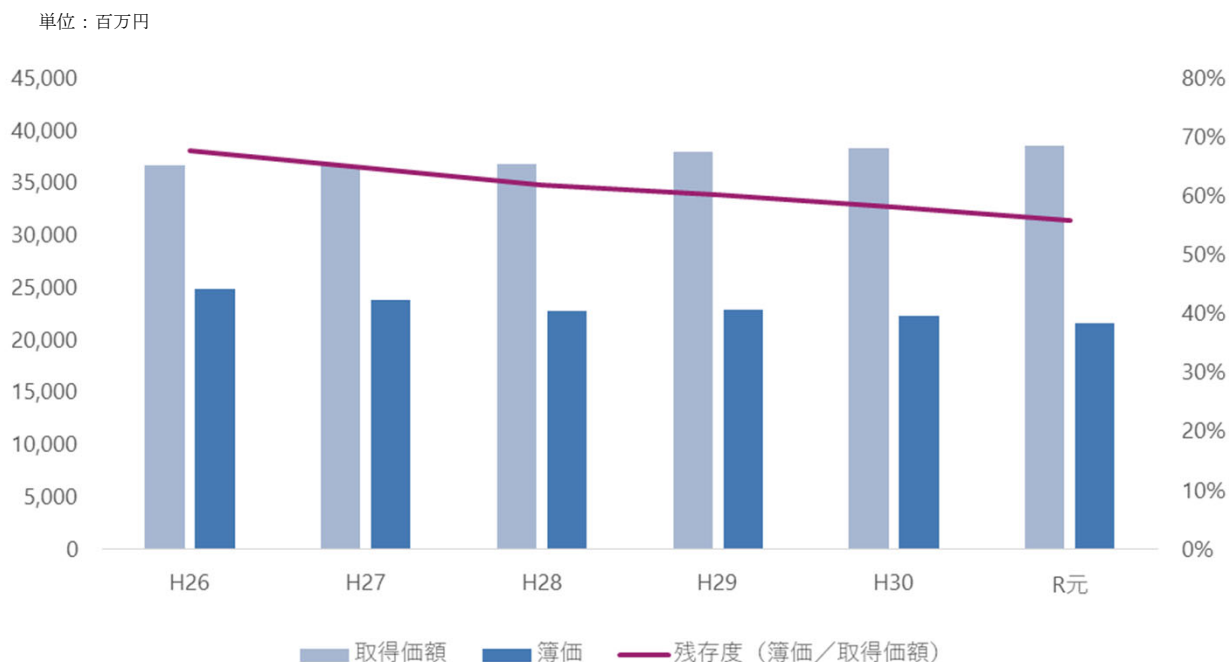


平成26年度以降、業務費に対する割合はどの科目も大きくは変化していないが、以下のことが中期的な傾向として読み取れる。

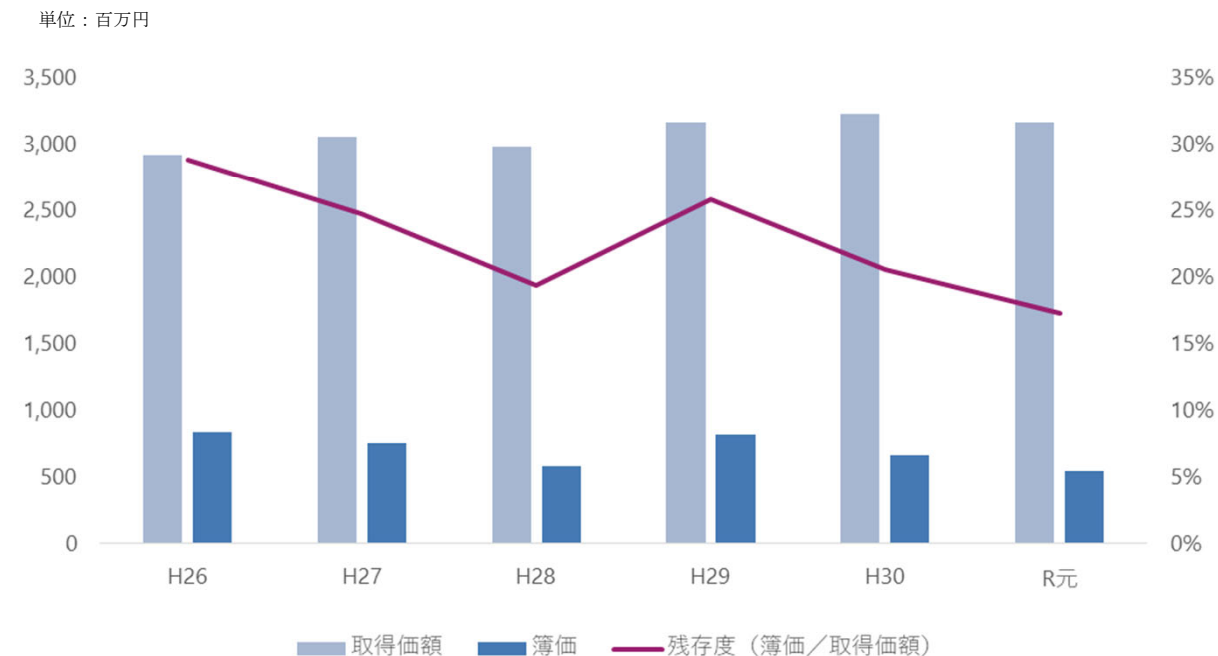
- ・ 研究経費は減少し、業務費全体に対する、研究経費の割合も減少している。
- ・ 業務費全体の増加割合よりも受託事業費の増加割合が大きく、受託事業の需要が高まってきている。
- ・ 教員人件費の金額は増加しているが、教員人件費の増加割合よりも業務費全体の増加割合が大きいため、教員人件費の割合が減少している。

## 4. 有形固定資産

### 施設（建物・構築物）の推移



### 設備（工具器具備品）の推移

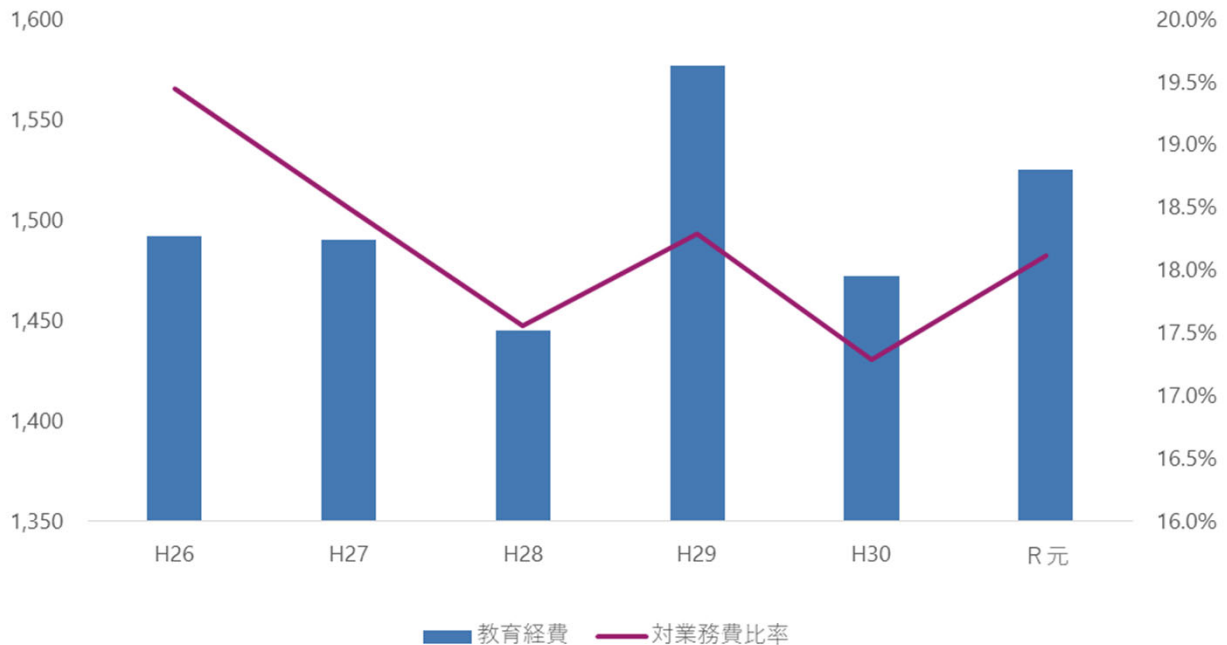


取得価額が増加していることから、施設・設備への投資が進んでいることがわかる。一方で、簿価は減少しているため、施設・設備の老朽化・陳腐化も進んでいることがわかる。残存度（簿価/取得価額）は減少傾向にあるため、投資は進んでいるけれども、それが老朽化・陳腐化に追いついていないことが推測される。

## 5. 教育経費・研究経費

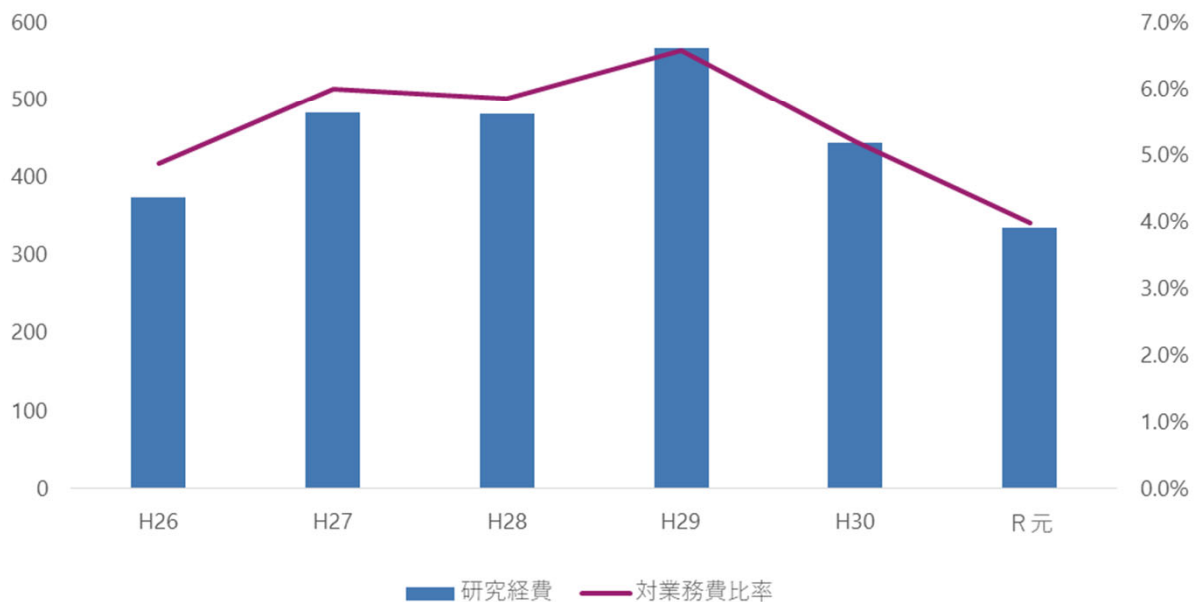
### 教育経費の推移

単位：百万円



### 研究経費の推移

単位：百万円



教育経費については、金額・対業務比率ともに減少傾向であったが、令和元年度増加した。

研究経費については教育経費と同様で金額・対業務比率ともに減少しており、令和元年度はこの6年間で一番低い水準となった。

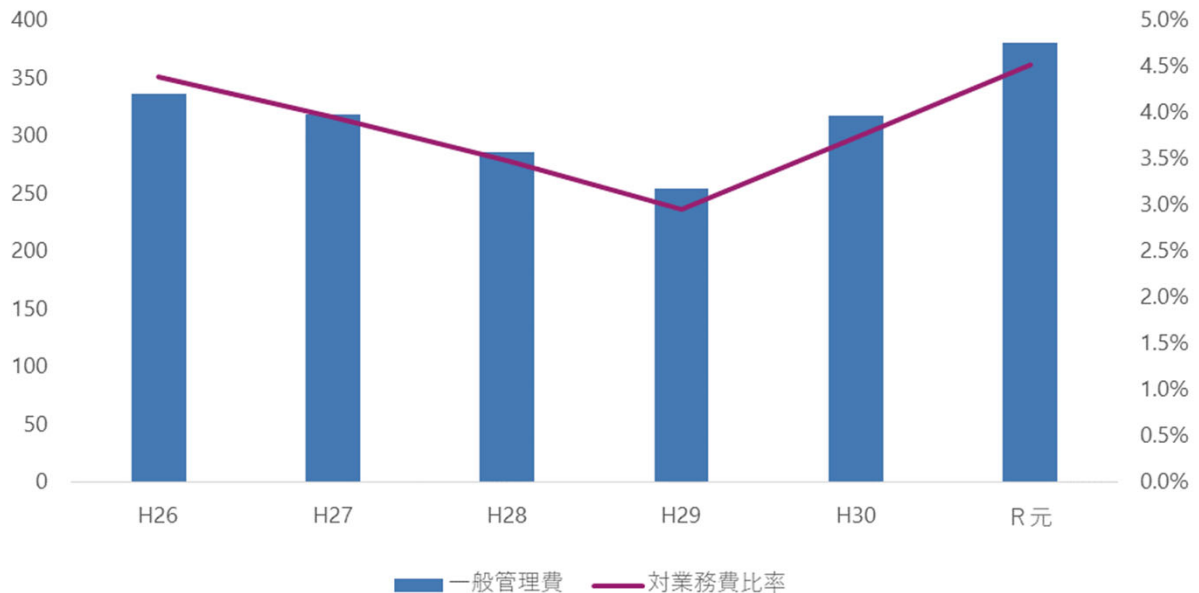


## 6. 一般管理費・人件費

### 一般管理費の推移

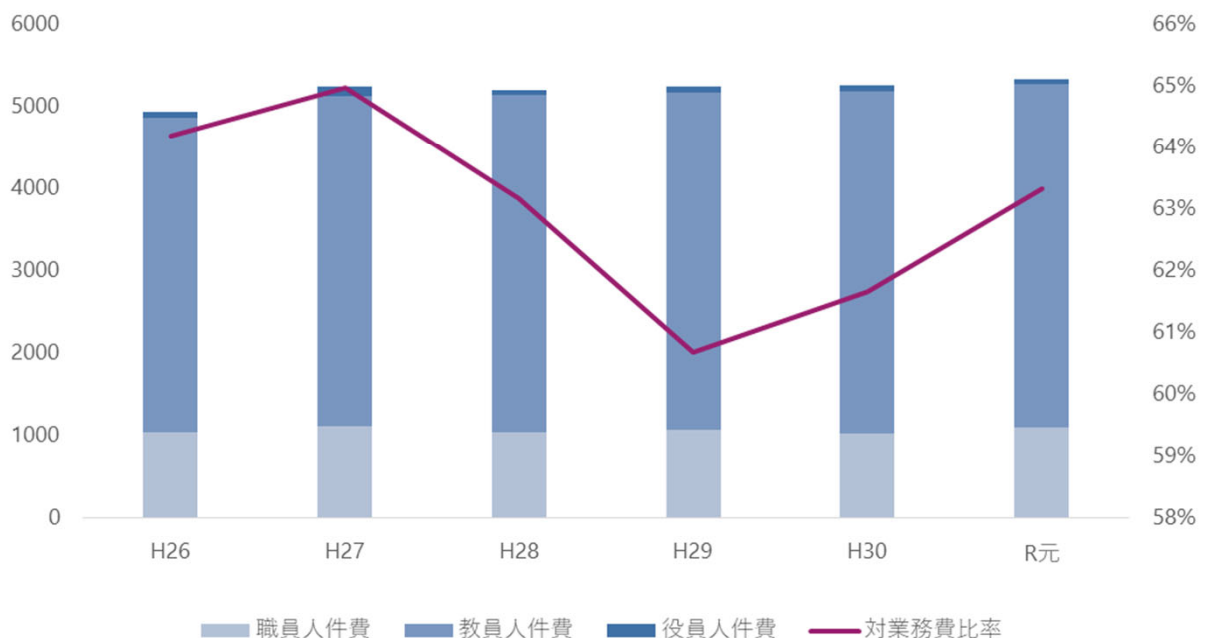
平成30年度分についてはPCB廃棄物処理費への支出255百万円を除いた金額を表示)

単位：百万円



### 人件費の推移

単位：百万円

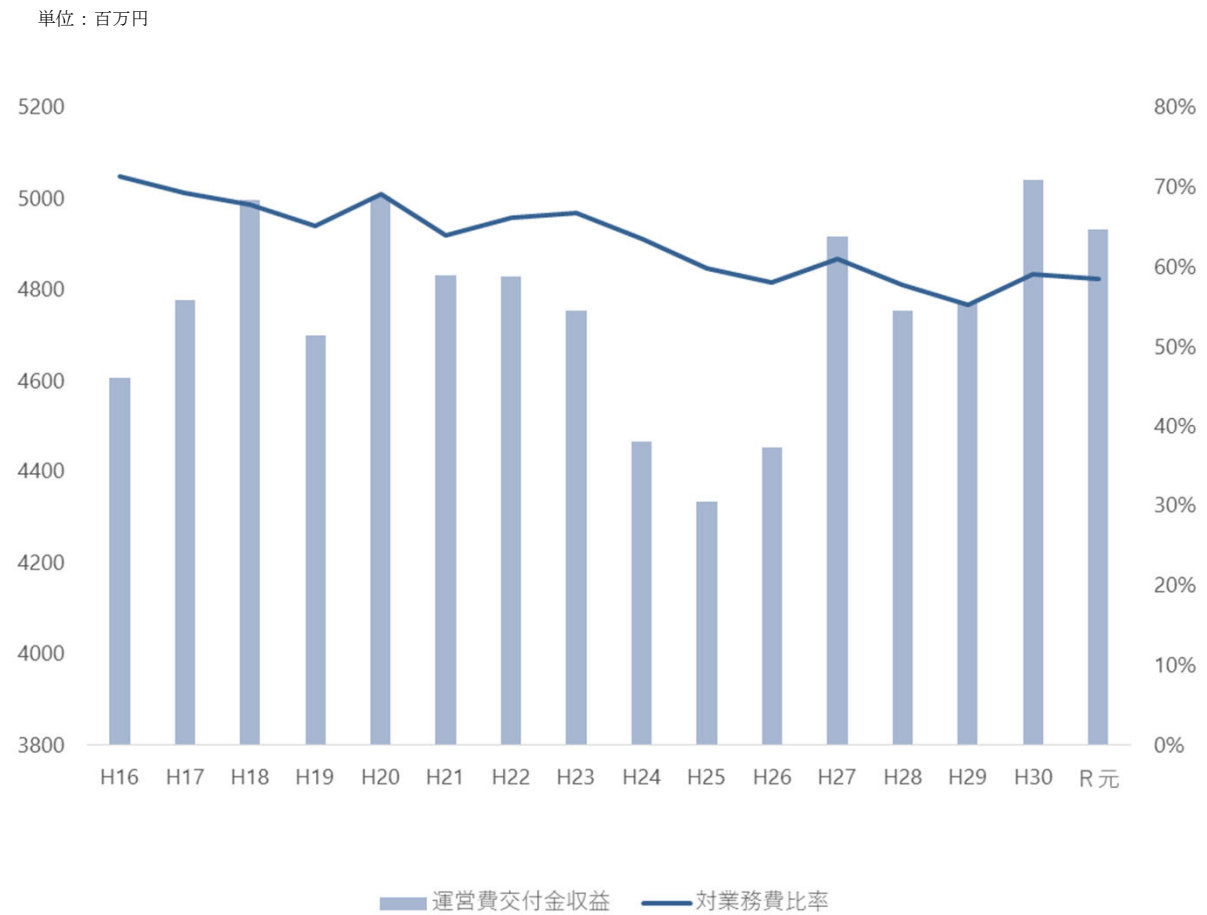


一般管理費については平成29年度まで減少していたが、平成30年度より増加に転じた。主な要因は台風等の災害による設備等や樹木倒木被害の修繕費の増、老朽化による修繕工事の増、派遣職員の委託費の増及び消費税増税の影響である。

人件費の金額は増加傾向であり、対業務費比率は平成29年度までは減少傾向であったが、平成30年度より双方とも増加に転じてきている。

# 7. 運営費交付金

## 運営費交付金収益の推移

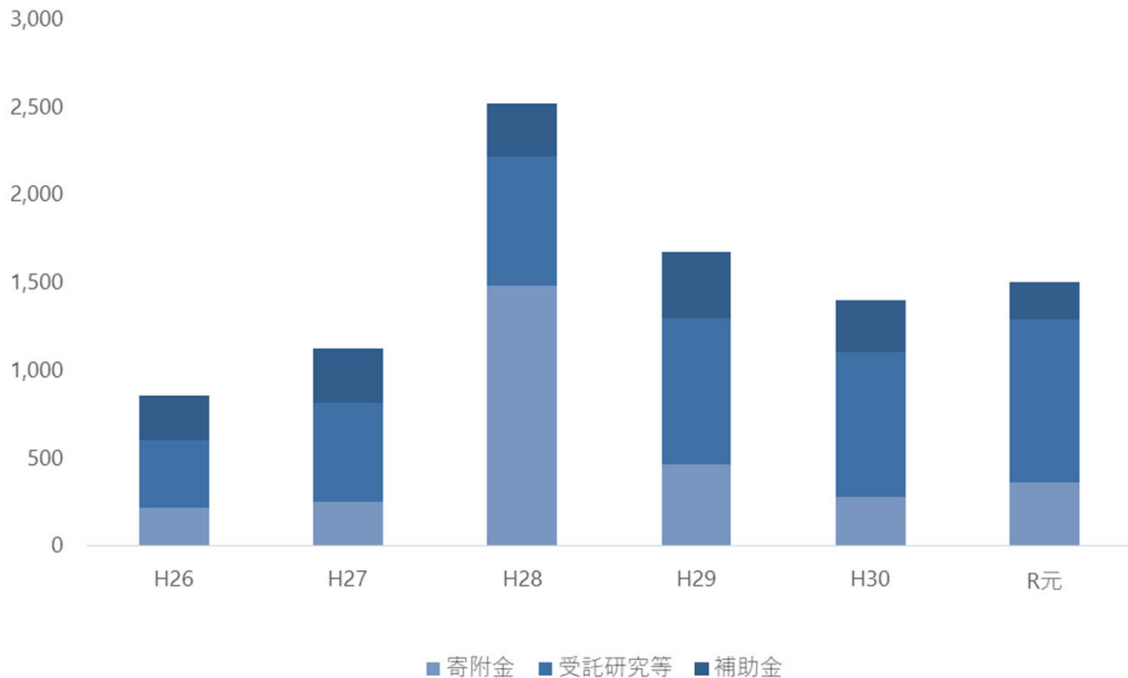


運営費交付金収益は平成25年度まで減少傾向にあったが、平成26年度以降は増加傾向にある。しかし、対業務費比率は平成26年度以降も減少傾向にあるため、運営費交付金収益の増加以上に業務費が増加しており、運営費交付が投入の度合いが低いといえる。

## 8. 外部資金

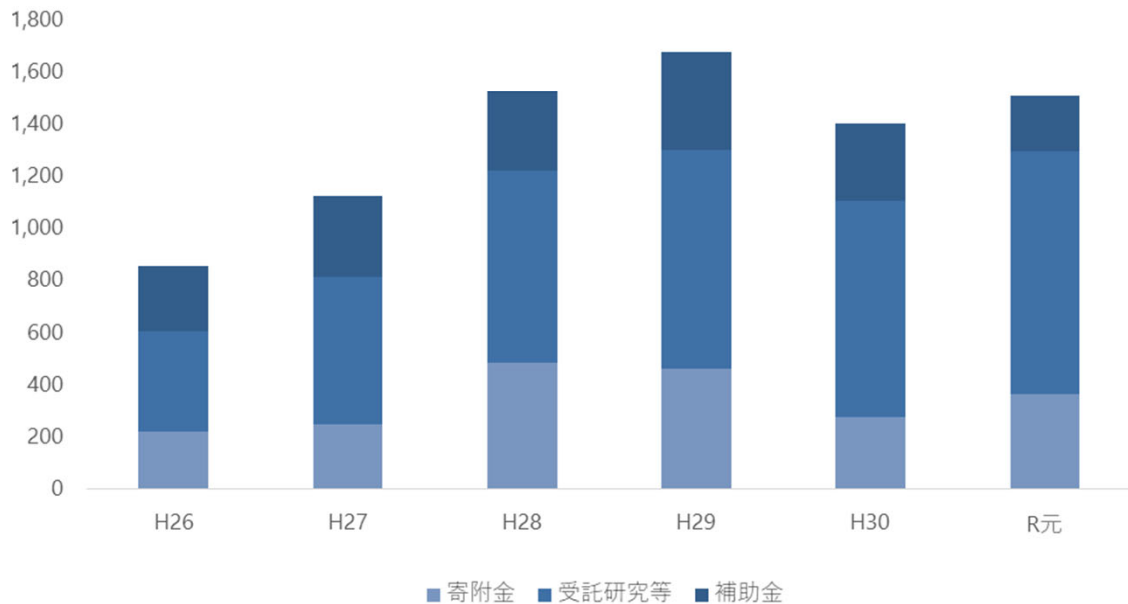
### 外部資金の推移

単位：百万円



### 外部資金の推移 (平成28年度の寄附金から1件分(10億円)マイナス)

(単位：百万円)

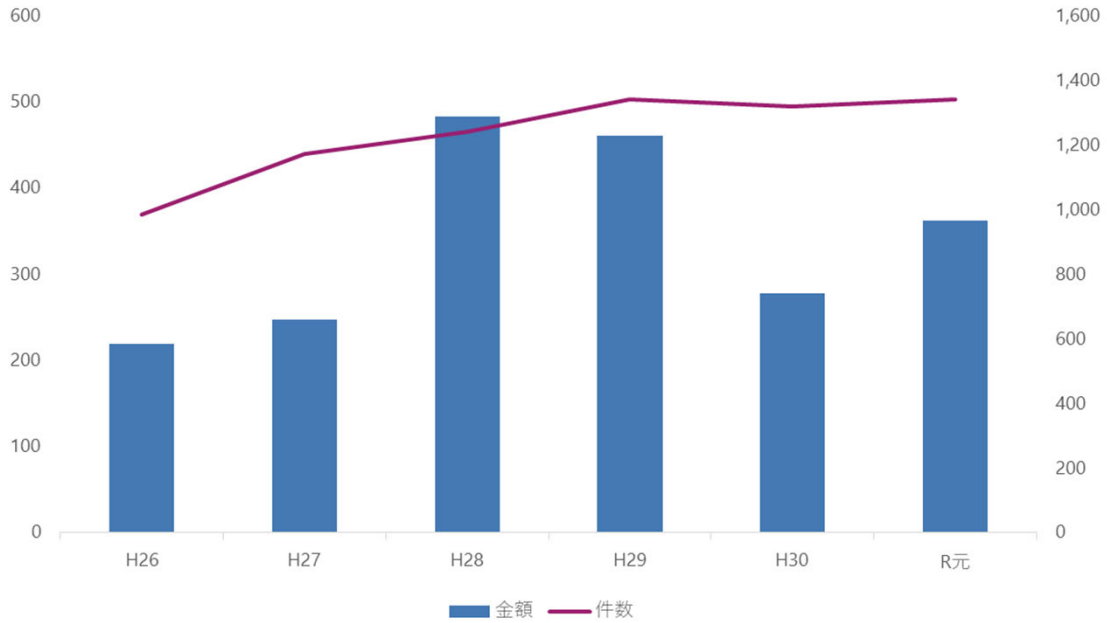


平成28年度に大型寄附(10億円)が1件あった。それも含めた受入額の推移が上のグラフであり、それを除いた推移が下のグラフである。下のグラフを見ると、受託研究等が最も金額が大きく、近年金額も増加してきているものの、寄附金・補助金は年度によって金額のばらつきがあることがわかる。

# 9. 寄附金

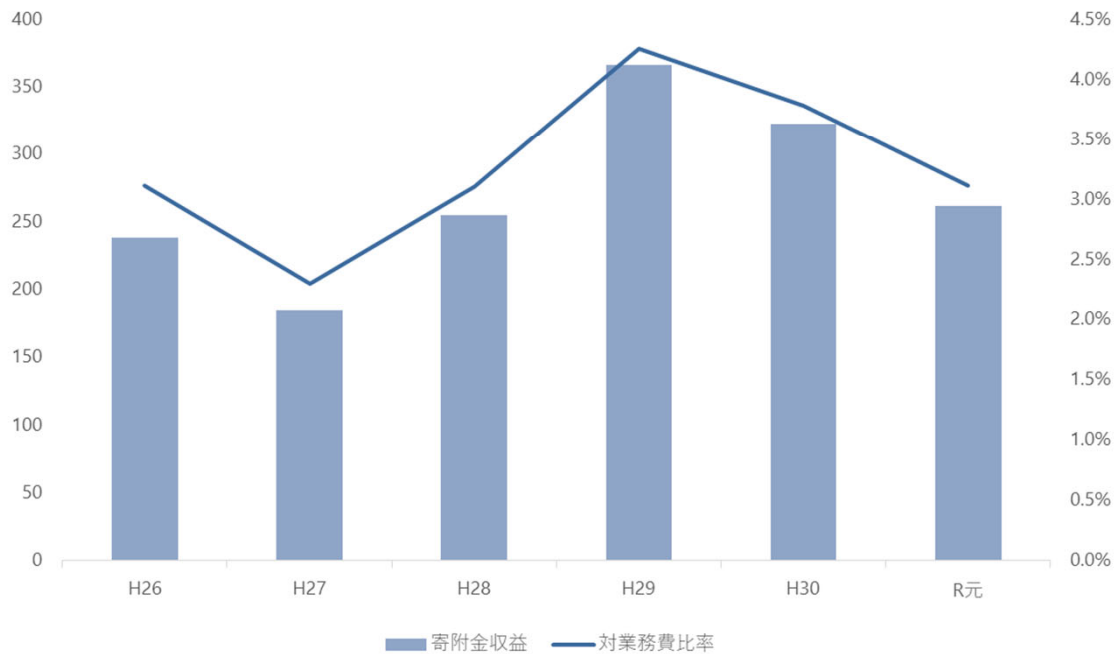
寄附金受入額の推移 (平成28年度の寄附金から1件分(10億円)マイナス)

単位：百万円



## 寄附金収益の推移

単位：百万円

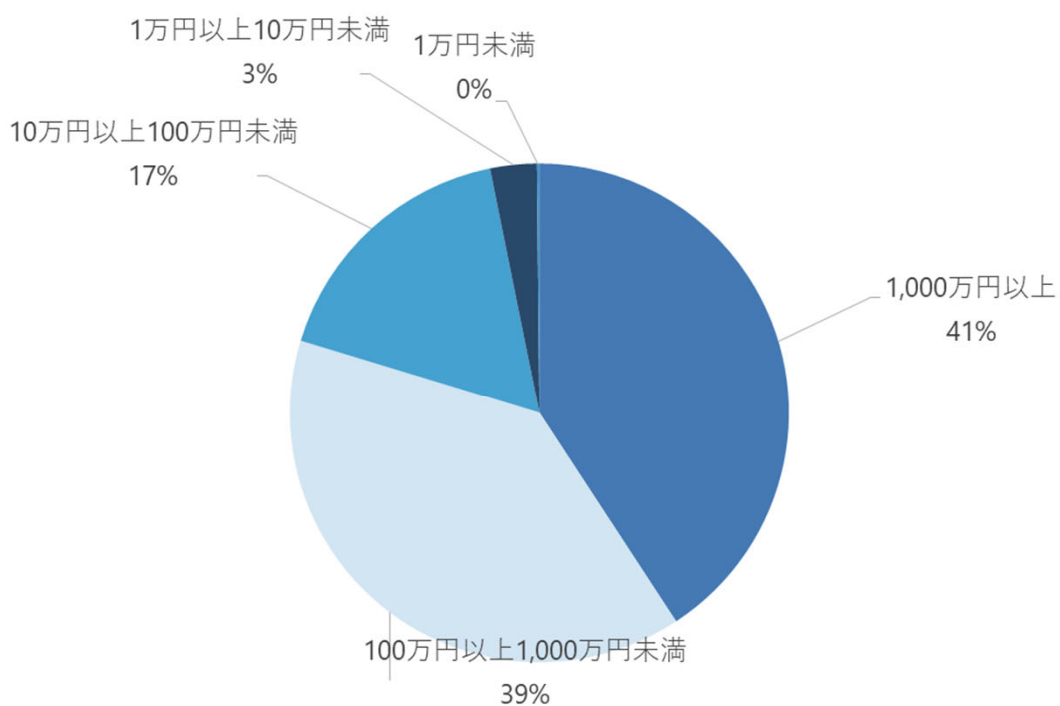


寄附金の受入額の推移を見ると、件数は一貫して増加しており、金額は平成28年度をピークに減少していたが、令和元年において増加に転じている。

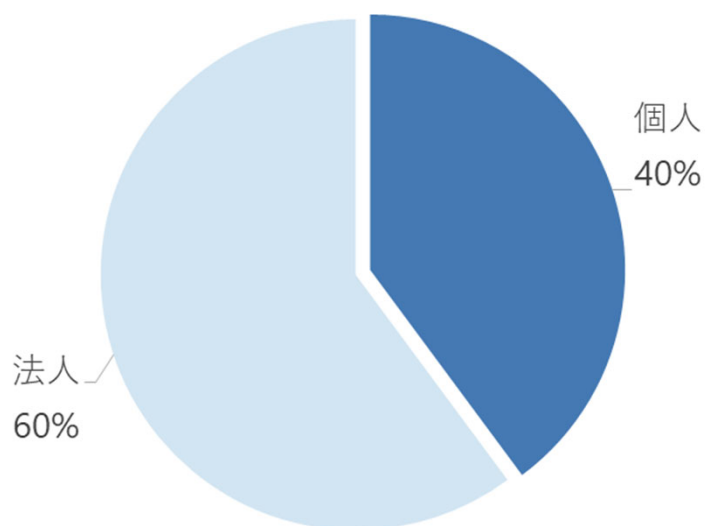
寄附金収益及び対業務比率推移を見ると平成29年度まで増加していたが、それ以降は寄附金収益が減少し、対業務比率も同様に推移していることから大学業務全体に占める寄附金への依存度は変化していないといえる。

## 令和元年度受入額の内訳

(金額種別)



(相手先種別)



参考：令和元年度に受け入れた寄附金の中で特に受入額の大きかったもの

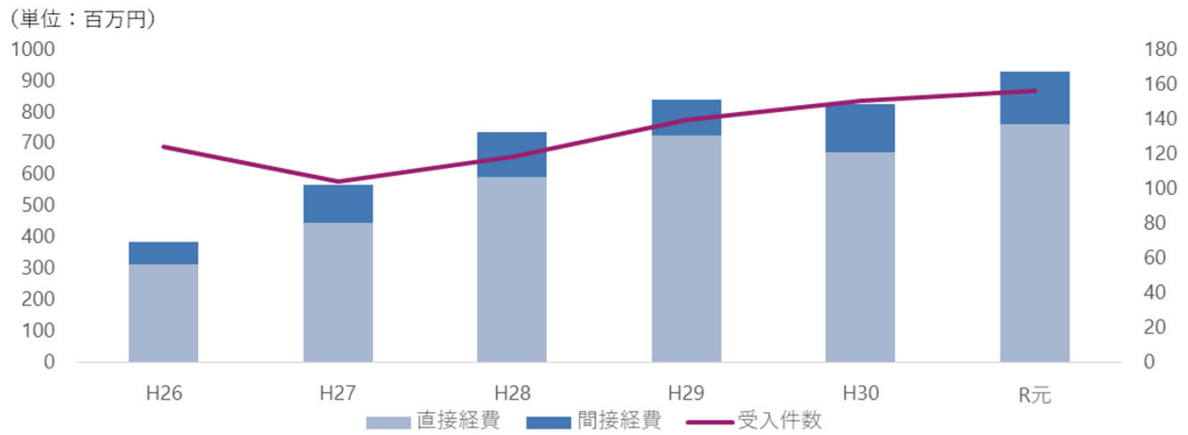
40,000,000円（個人、藝大基金にて受入）

27,000,000円（個人、藝大基金にて受入）

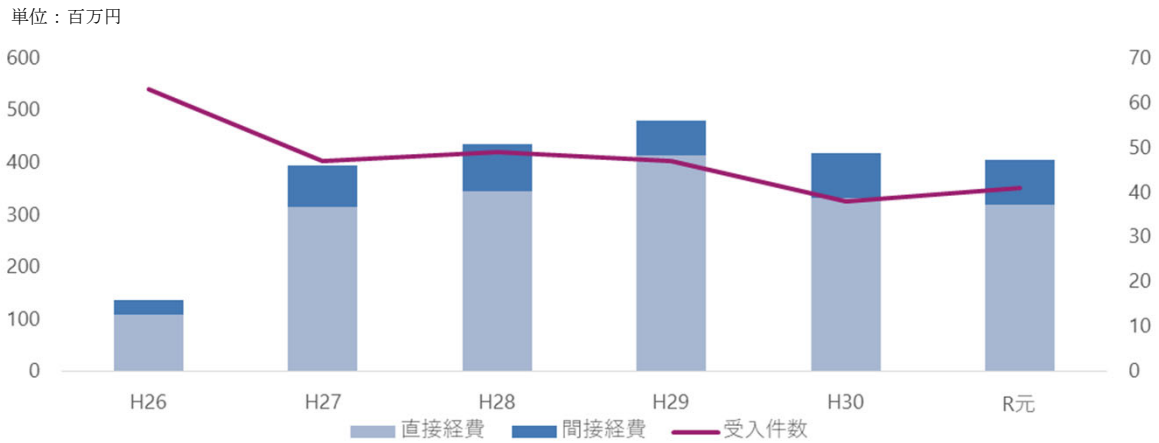
13,000,000円（個人、音楽学部にて受入）

# 10. 受託研究等

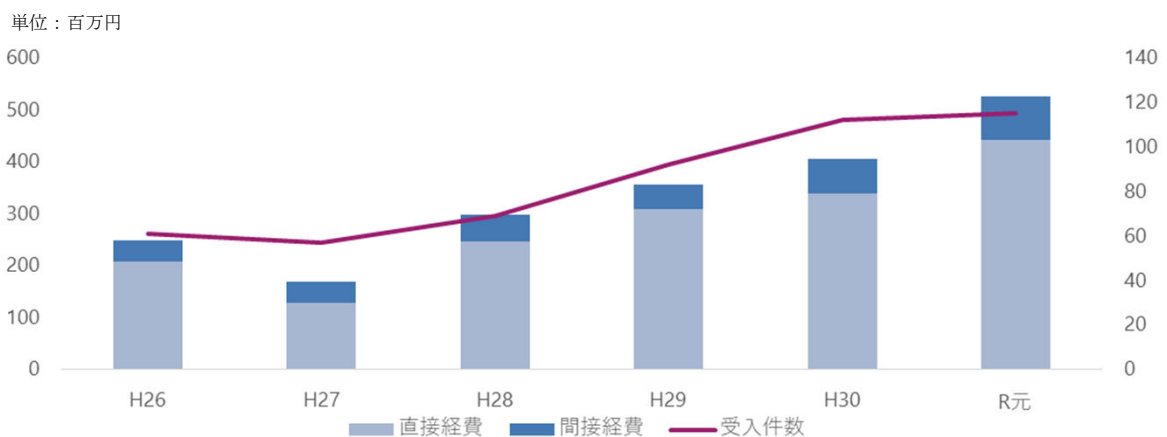
## 受託研究等・受託事業等の受入額・受入件数の推移



## 受託研究等の受入額・受入件数の推移



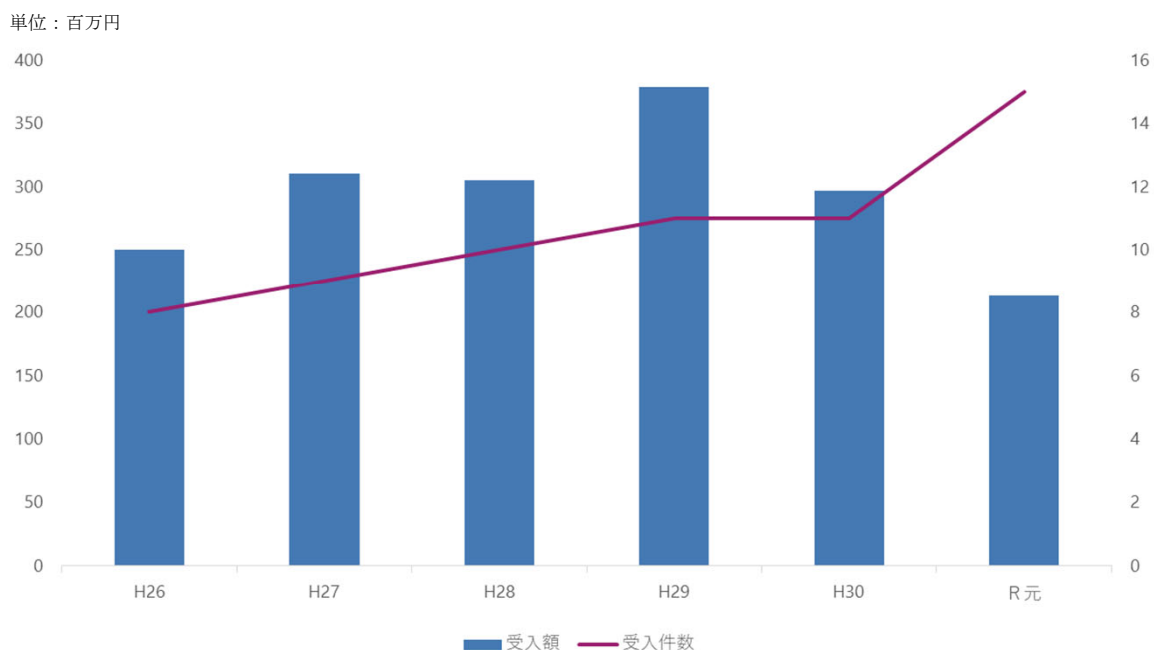
## 受託事業等の受入額・受入件数の推移



受託研究等・受託事業等の推移を見ると、受入額・受入件数ともに増加傾向にあることがわかる。受託研究等については、受入件数は減少傾向にあるものの、受入額に近年大きな変化はない。一方、受託事業等については、受入件数・受入額ともに近年増加し続けていることがわかる。

# 1 1 . 補助金等

補助金等の受入額・受入件数の推移



## 参考：平成30年度で終了した補助金の中で額が大きかったもの

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型） 28,404千円

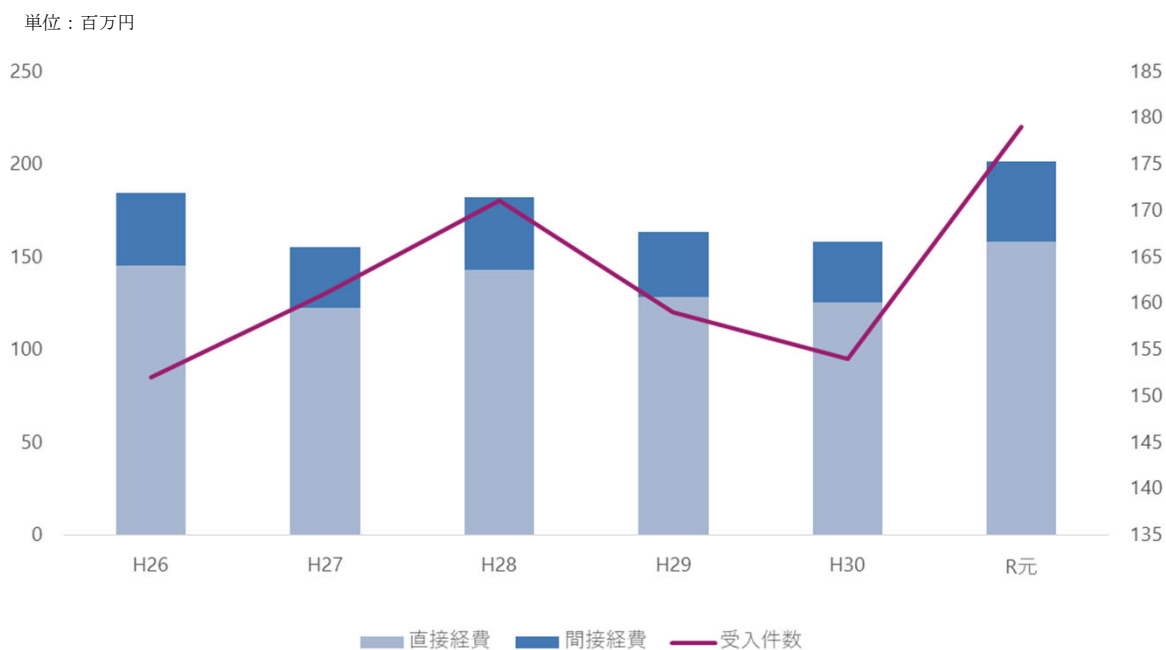
マルチメディア・コンテンツに関する領域融合・実践型国際研究による人材育成 51,729千円

国立大学法人機能強化促進補助金 45,350千円

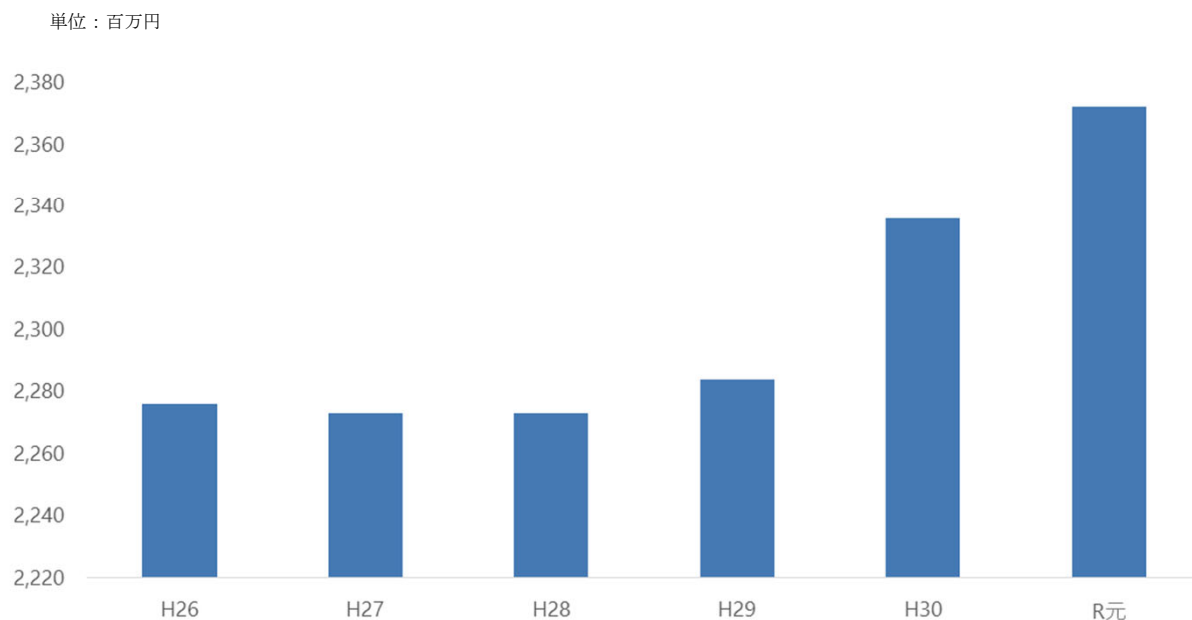
補助金等の受入件数は一貫して増加しているものの、受入額については平成30年度から減少しているが、要因として大型の補助金が終了したことが影響している。

## 12. 科研費

### 科研費の受入額・受入件数の推移



### 国の科研費の予算額の推移



※日本学術振興会「予算額の推移」(2019年6月7日閲覧)

[https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27\\_kdata/data/1-1/1-1\\_h30.pdf](https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/data/1-1/1-1_h30.pdf)

平成29年度・平成30年度の2年連続で受入額・受入件数ともに減少してしたが、令和元年度は増加している。

一方、国の科研費の予算は平成26年度以降はほぼ横ばいではあるが、平成30年度・平成元年度は増加している。







TOKYO GEIDAI

作成：国立大学法人東京芸術大学 戦略企画課

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

本財務報告書は、東京芸術大学ホームページに掲載しております。

URL：[https://www.geidai.ac.jp/information/info\\_public/legal](https://www.geidai.ac.jp/information/info_public/legal)